

## 1 「見通し」の学習過程の位置の変更

これまでの問題解決の学習過程を次のように行っていた。

◎問題（資料）の提示→問いをもつ・問いの共有→課題の設定→自力解決→集団解決→振り返り→まとめ

これまでは、「問いをもつ（わかっていること？ 聞かれていることは？ 単位は？ 前時の学習との違いは？）・問いの共有（求める方法？）を同時に行っていた。学習問題に対しては、正対できたが、その後に「課題設定」を行うため、課題の文言を入れた問いの共有（求める方法）ができなかった。そのため、考察の内容やまとめが薄かった。

◎問→見（問いをもつ・問いの共有）→課→自→集→ま→ふ

そこで、次のように変えるとよいことに気づいた。

◎問題（資料）の提示→問いをもつ→課題の設定→問いの共有→自力解決→集団解決→振り返り→まとめ

この新問題解決の学習過程では、課題の設定を問いの共有の前に行うため、しっかりと課題文の文言を問いの共有に取り込むことができる。

（例）問題

子供が8人遊んでいました。そこに3人遊びに来ました。全員で何人になりますか。

これまでは、求める方法も問題提示の後に行っていたため、見通しは（求める方法）は、「足し算で式は8 + 3」だけとしていた。

課題文

8 + 3の計算の仕方を、図・式・言葉を使って説明しよう。

課題の文言に、図・式・言葉があるため、8 + 3の計算とあわせて、この文言を問いの共有（見通し）の中に取り込めることができる。「見通し」が確かなものとなると自力解決がしやすく、また考察（深い学び）の中で見通しの中で出た内容を取り入れることができる。

◎問→気づき（問いをもつ）→課→見（問いの共有）→自→友→考→ま→ふ（課題の文言を見通しに入れる）

## 2 学習過程の親戚関係とグッズの色分け

「見通し」や「考察」を重視していくと、学習過程全体に、いわゆる親戚関係があることが分かる。

・「問いの共有」と「考察」との親戚関係

見通し（問いの共有）で求め方や課題文の文言を取り込めるので、見通しで出た内容を考察のところで検証することができる。

・「課題」と「まとめ」との親戚関係

課題の1行目は、まとめの1行目に記載するため親戚関係となる。

・「自力解決」と「集団解決1（まずは考えの出し合い）」の親戚関係

自力解決で出た内容を集団解決1の出し合いで同じように出すことができるので親戚関係となる。

・学習程のグッズの色分け

学習過程のそれぞれを色分けするとわかりやすくなる。

問い→気づき（問いをもつ）→課題 → 見（問いの共有）→ 自 → 友 → 考 → ま → ふ  
（黄） （青） （緑） （緑） （青） （黄）